

# マダニ

- 吸血する。
- 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)・野兔病・ライム病  
紅斑熱を媒介することがある。
- 草地や、山林・森林に行った、野外作業をした後日に  
発熱等の症状がでたら、医師に草地等に入ったことや、  
野外作業をしたことを告げる。



## ●日本にいるマダニの種類：ヤマトマダニ・シュツエマダニ・フタトゲチマダニなど

※SFTS ウイルスはわが国ではフタトゲチマダニ、ヒゲナガマダニ、オオトゲチマダニ、キチマダニ、タカサゴキララマダニから  
ウイルス遺伝子が検出されていますが、必ずウイルスを保有しているわけではなく、実態について調査が進められています。

草地やヤブ、山林・森林などで、知らぬ間に刺されて吸血されることがあります。また、野兔病（やと病）や紅斑病、ライム病を媒介することがあります。

わが国で最近新たに確認されたマダニによる重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスの感染では、これまで41人が感染し13の方が亡くなっています(26年2月現在)。患者は今のところ西日本の13県で確認されていますが、新たに7道府県でウイルスが確認されていることから全国的に広がっていると考えられます。さらにマダニは全国的に生息しており、患者こそ確認されておきませんが、他県でも注意が必要です。ウイルスや細菌を保有しているマダニに吸血されると病気になることがあります(必ず保有しているわけではありません)。キャンプやハイキング等に行ったときは、不用意に草むらなどに入らないようにしましょう。小学生が林間学校先で刺されたケースがあります。特に山菜取りなどで「藪漕ぎ(やぶこぎ)：道のない藪・草地をかきわけて進む」は注意が必要です。藪の中を走り回って出てきた犬を見たことがあるのですが、可哀そうなくらい目の周りから体全身にマダニをくっ付けていました。ヤマトマダニの場合、吸血すると約10日、この間体から離れません。

## 予防方法

- 一番の予防は草地に入らないこと「藪漕ぎ」をしない、草地に座らない、寝転がらないことです。
- 野外作業や草地に入る時の服装は、なるべく肌が出ないよう長袖・長ズボン・長靴・手袋をします。又、ズボンの袖は長靴の中に入れます。薬局で市販の「忌避(きひ)剤(ディート剤:ジエフルアルミド成分)」を服等にスプレーしてください。袖口にもスプレーしてください。

ただし、忌避剤は、過敏な方や幼児への使用には注意が必要です(忌避剤の説明文等参照)。

- 草地に入ったり、「藪漕ぎ」などを行い家にもどってきたら、衣類はすぐに脱いで洗剤を入れて洗濯しましょう。また、入浴して身体をよく洗いましょう。身体に虫(イボと勘違いする方がいます)がくっついていないか確認しましょう。刺されていた場合は、無理に取らないようにしてください。すぐ取る方法もありますが、マダニを潰したり、無理して取ると口器が残り化膿したりしますので、皮膚科で取ってもらいましょう。後日、熱や嘔吐、下痢などの症状が現れたら医療機関に行き、草地などに入ったことや、野外作業をした、キャンプに行ったことなど、いつ頃、どのような場所・地域に行ったかなどを医師に教えてください。

**情報提供：豊島区池袋保健所生活衛生課** ※重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は4類感染症に指定されました。このため、患者を診断した医師は、最寄りの保健所に届出が必要です。